

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和4年度農作物病害虫発生予察情報について

令和4年度農作物病害虫発生予報第3号を発表したので送付します。

令和4年度農作物病害虫発生予報第3号

令和4年5月31日
徳島県

I. 普通作物

早期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が0.5%、発病度が0.0)。

なお、補植用置き苗には発生を認めていない。

(2) 高松地方気象台が5月26日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
(2) 早期発見に努め、発生を認めたら防除を行う。

普通期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.3%、発病度が0.1)。なお、補植用置き苗には発生を認めていない。

(2) 高松地方気象台が5月26日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
(2) 早期発見に努め、発生を認めたら防除を行う。

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が30.8%と、平年(20.4%)に比べてやや高いが、25株当たり成虫数は0.8頭と、平年(0.7頭)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が5月26日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し、殺虫剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤を水面施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が発生しやすいので、深水を避け、根を健全に保つ。

サツマイモ

イモキバガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が36.4%と、平年(8.4%)に比べて高いが、被害葉率は0.4%と、平年(0.6%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が5月26日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期に、薬剤を散布する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が63.6%と、平年(60.1%)並の発生であるが、寄生株率は8.7%と、平年(19.3%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が5月26日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、葉裏にも薬液が付着するよう丁寧に散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少なく)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が27.3%、寄生葉率が1.1%と、平年(45.6%、3.6%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が5月26日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、葉裏にも薬液が付着するよう丁寧に散布する。

II. 果樹

カンキツ

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場(勝浦町)での第1世代幼虫は、5月13日に初発生を認めた(平年:5月16日、前年:5月14日)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 有機リン剤による防除適期は、ふ化幼虫発生の35~40日後である。
- (2) スダチでは、有機リン剤による防除は行わない。

ナシ

黒星病

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
(1) 5月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
(2) 高松地方気象台が5月26日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 摘果期に薬剤防除を行う。
(2) 薬剤耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

- 1) 予報内容
発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」
- 2) 予報の根拠
(1) 5月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が75.0%、寄生新梢率が15.4%と、平年(18.8%、1.3%)に比べて高い。
(2) 高松地方気象台が5月26日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
(2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
(3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類(5月10日付けで技術情報を発表)

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」
- 2) 予報の根拠
(1) 5月の予察灯調査において、勝浦町での誘殺数は、各種カメムシともに平年に比べて少なく推移している。一方上板町では、各種カメムシともに平年に比べてやや多く推移している(表1)。
(2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、8地点で越冬を確認した。越冬成虫は2.0頭/m²であり、平年(2.4頭/m²)並の越冬密度で、前年(成虫確認地点数が6地点、越冬成虫数が0.8頭/m²)に比べてやや高い。
(3) 高松地方気象台が5月26日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 果樹園周辺の山林や雑木林から成虫が飛来してくるので、園内を巡回し、飛来を確認したら早急に防除を行う。
(2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
(3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

表1 予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]								[チャバネアオカメムシの誘殺数]							
月	半旬	勝浦町			上板町			月	半旬	勝浦町			上板町		
		2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年			2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年
5	1	2	0	40	29	9	30	5	1	17	0	11	22	2	7
	2	10	1	43	171	8	23		2	38	0	9	166	16	8
	3	2	48	70	71	121	47		3	6	42	19	239	16	14
	4	0	17	101	17	69	37		4	3	20	29	16	24	11
	5	0	3	43	26	4	19		5	3	5	16	21	20	11
	6		2	70		9	18		6		0	29		4	11
6	1		3	44		17	13	6	1		1	7		1	6
	2		23	118		23	19		2		1	9		9	10

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(22.6%)並の発生であるが、発病株率は0.9%と、平年(5.4%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が5月26日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が17～23℃の時胞子飛散量が増加し蔓延が増加する。
- (2) 多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布や発生初期の防除に重点をおく。ネギには薬液が附着しにくいので、展着剤を加え、薬剤が確実に葉全体に附着するように散布する。
- (3) 肥料切れして草勢が衰えると発病が助長されるので、肥培管理を適切に行う。
- (4) 被害葉は伝染源となるので、圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が88.9%と、平年(94.1%)並の発生であるが、被害度は5.8と、平年(11.5)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が5月26日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、生育初期の被害を防止する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(75.9%)に比べてやや低く、被害度は0.2と、平年(5.3)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が5月26日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、生育初期の被害を防止する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

Ⅳ. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。